

**重要なお知らせ**

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、本館関連の催し物について、本コーナーに掲載の情報も含め、急遽、予定を変更する可能性がございます。詳細につきましては、決まり次第本館ホームページに掲載いたします。何卒ご理解のほど、お願い申し上げます。

**特別展・企画展の会期変更について**

特別展「先住民の宝」、梅棹忠夫先生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」の開幕日について、新型コロナウイルス感染症拡大で会期を延期することとなり、現時点で左記の予定となりました。

**梅棹忠夫先生誕100年記念企画展  
「知的生産のフロンティア」**

みんなく初代館長を務めた梅棹忠夫が残したアーカイブズ資料とデジタルデータベースをおして、フィールドワークから著作への「知的生産」をくわしく紹介します。

会期 9月3日(木)～10月20日(火)  
会場 本館企画展示場



モンゴルのフィールドノート (撮影：尼川匡志)

ストラリア、中南米、アフリカ、台湾、ネパール、マレーシアなど、世界各地に暮らすそれぞれの「先住民」が大切にしている「宝」を展示します。

会期 10月1日(木)～12月15日(火)  
会場 特別展示館



オラン・アスリのコーナー。マレーシアの先住民オラン・アスリの彫像の展示風景

**みんなくクラウドファンディング報告**

みんなくクラウドファンディング「世界とつながる——トーテムポールをカナダ先住民のアーティストと造ろう」に温かいご支援を賜り、ありがとうございます。トーテムポールは3月上旬にバンクーバーまで陸送され、4月1日に大阪港に到着、4月10日にみんなく運ばれました。現在、6月24日に立ち上げをおこなうべく調整を進めていますが、休館日のため、立ち上げの様子を皆さまに公開することができません。何卒、ご理解いただけますようお願いいたします。また、トーテムポールの立ち上げにあたっては、制作者のビル・ヘンダーソン氏をはじめ、クワクワカワクワの方々を招聘し、立ち上げに伴う伝統的な儀式をおこなう予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、今なおカナダからの来日がかなわず、儀式の実施が難しい状況です。後日、改めて、クワクワカワクワの方々を招聘し、祝福の儀式を実施する予定です。期日が決まり次第、みんなくホームページ等でご案内いたします。

**新型コロナウイルス感染症拡大にあつての館長からのメッセージ**

ホームページの館長室だよりに5月6日付けで吉田館長からの4000字にも迫るメッセージを掲載しております。過去の感染症の例をひもときながら、その共通性を考察し、さらに新型コロナウイルスに対してどのような意識が求められるか、について語っておりますので、ぜひご覧ください。  
<https://www.minpaku.ac.jp/research/news/20200506>

**特別展  
「先住民の宝」**

世界には、「先住民」と呼ばれる人たちがいます。先住民とはだれか? 「玉」にこめられた思いとは何なのか? 本展覧会では、日本のアイヌをはじめ、北欧、カナダ、オーストラリア、中南米、アフリカ、台湾、ネパール、マレーシアなど、世界各地に暮らすそれぞれの「先住民」が大切にしている「宝」を展示します。

**「おうちでみんなく」のご案内**

現在、「ご自宅やお手元でみんなくが利用できるサイト」「おうちでみんなく」をホームページに公開中です。新しく、みんなくで過去におこなったワークショップをコンパクトにまとめた動画「おうちでみんなくワークショップ」を追加しました。さいしょのテーマは「ビーズの素材に注目!ペーパービーズづくりに挑戦」です。動画をご覧になりましたら、ぜひみなさんもペーパービーズづくりに挑戦してみてください。  
<https://www.minpaku.ac.jp/museum/news/ouchi>



「ビーズの素材に注目!ペーパービーズづくりに挑戦」

**【開幕を延期します】**

巡回展  
特別展 驚異と怪異  
「モンスターたちは告げる」

会期 未定  
会場 兵庫県立歴史博物館  
休館日 月曜日  
主催 兵庫県立歴史博物館 神戸新聞社  
国立民族学博物館 千里文化財団  
後援 兵庫県 兵庫県教育委員会 NHK神戸放送局  
サンテレビジョン フジオ関西  
協力 山陽電気鉄道株式会社 神姫バス株式会社  
特別協力 ラインテック国立民族学博物館

※各イベントについてくわしくは、みんなくホームページをご覧ください。  
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時(土日祝を除く)です。

■河合洋尚 著  
『〈客家空間〉の生産  
——梅県における「原郷」創出の民族誌』  
風響社 5,000円(税別)

近年の中国はエスニックな資源を用いて、開発・観光を進める傾向が顕著になっている。本書は、広東の地方都市であった梅県が「客家の故郷」として変貌していく姿を、歴史人類学の視点から描き出している。なお、梅県は、歴史的に日本とのつながりが深い地でもある。本書は、梅県をめぐる日本初の体系的なエスノグラフィーとなっている。



■池谷和信 編  
『ビーズでたどるホモ・サピエンス史  
——美の起源に迫る』  
昭和堂 2,800円(税別)

ビーズは現人類の最初のアートといわれる。その素材や細工は地域や時代によって多種多様。富や威信、集団の象徴など社会的役割も担ってきた。本書では、ビーズの誕生した約十萬年前から現在まで、地球全域をフィールドに、ビーズを軸にホモ・サピエンス史をたどる。



刊行物紹介  
■Richard L. Burger, Lucy C. Salazar, 関雄二 編著  
『Perspectives on Early Andean Civilization in Peru: Interaction, Authority, and Socioeconomic Organization during the First and Second Millennia B.C.』  
Yale University Department of Anthropology and the Yale Peabody Museum of Natural History \$ 35.00

世界の古代文明と比べると、アンデス文明では、その初期に都市ではなく、巨大な公共建造物(神殿)が出現することで知られる。本書では、その出現と、社会統合や社会的格差の関係が論じられている。この分野は、世界でも日本の学術的蓄積が群を抜いており、国際学界に対するより強いアピールになる。



**友の会**

国立民族学博物館友の会 電話 06-6877-8893 (9時～17時、土日祝を除く) FAX 06-6878-3716  
[https://www.senri-f.or.jp/minpaku\\_associates/](https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/) E-mail minpakutomoto@senri-f.or.jp

**ミニレクチャーを動画配信します**

6月順次公開予定! ご遠方の方も友の会をお楽しみください。  
話者 中牧弘允(本館 名誉教授、千里文化財団 理事長)

**第1回  
梅棹忠夫が残した「こざね」とは?というものか**

みんなく初代館長梅棹忠夫が残した「こざね」と称する手書きのメモ。知的生産のために駆使した技術のひもとく。その「こざね」を手がかりに、幻に終わった著作「日本人の宗教」の復元にいどみました。初回は「こざね」とは?というもので、どう使うのかを紹介します。

**第2回  
「こざね」から復元する梅棹忠夫の「日本人の宗教」**

梅棹忠夫アーカイブスに残された約350枚の「こざね」。梅棹はそれを並べ、つながりのあるものをまとめ、配列しながら日本人の宗教の構想を固めていました。その一例として「箱庭方式」と名づけたモデルを紹介します。  
<https://www.senri-f.or.jp/tonomovie00/>



**【お詫言】**

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、左記の会講演会は予定しておりました日程での実施を見合わせることをいたしました。延期する場合は決定次第、改めてご案内いたします。

●6月6日(土)  
「アヌシコロアヌイ」ロマンケル」

●7月4日(土)  
「植物と人の関わり」  
タケ科植物、ヤシ科植物の道具利用を中心に」

本紙5月号でご案内しておりました、左記の動画は、諸般の事情により配信延期となりました。公開予定が決まりましたら改めてご案内いたします。

●動画配信(5月公開予定)  
「イギリスとオーストラリアをつなぐ風」

